

平成27年度 富山市民 感謝と誓いの つどい

とき 平成27年8月1日(土) 午後1時30分
ところ 富山国際会議場 メインホール

主催/富山市民感謝と誓いのつどい実行委員会・富山市

富山市自治振興連絡協議会
富山市老人クラブ連合会
富山市母親クラブ連絡協議会
富山市中学校長会

富山市社会福祉協議会
富山市民生委員児童委員協議会
富山市PTA連絡協議会

富山市遺族会
富山市児童クラブ連絡協議会
富山市小学校長会

小学生絵画最優秀賞

三・四年生の部



「海の中のフルーツいっぱい富山市」
富山市立呉羽小学校4年 馬瀬 陽菜さんの作品

三・四年生の部



「新がた新幹線は超特急」
富山市立古里小学校4年 岩崎 帆士郎さんの作品

三・四年生の部



「ライトレールがどこでも走るべりなまち」
富山市立豊田小学校4年 笠原 光晟さんの作品

小学生絵画優秀賞

五・六年生の部



「世界へはばたけ!!未来の富山市」
富山市立宮野小学校6年 経堂 龍さんの作品

五・六年生の部



「Yume city 富山」
富山市立新庄小学校6年 河野 琉花さんの作品

五・六年生の部



「お花から乗り物が飛び立つよ」
富山市立堀川南小学校5年 山澤 愛実さんの作品

富山市のあゆみ展

■日時・場所

7月30日(木) 午前10時～午後6時
7月31日(金) 午前9時～午後6時
8月1日(土) 午前9時～午後4時
富山国際会議場 1F交流ギャラリー

■内容

富山市の歴史の紹介や、市民生活の変遷を写真等のパネルで展示するほか、小学生が描く絵画「未来の富山市」も展示します。

このプログラムは再生紙を使用しています。

「富山大空襲」

富山市内幸町 久郷 朝子

私は五年生でした。毎日の防火訓練で子供なのにクタクタでした。夜は電気に黒い布をかけ、ガラス窓は米の字に紙を張り、毎日防空壕に入り、これからどうなるのかと迷っていました。

私はサイレンがなると、学校用品を全部かついで電車通りの防空壕に走りました。そんな日が毎日なので、みんな「またすぐ終る」と言いつつ、防空壕にあまり行かなくなりました。私は学校用品全部を持って、毎日サイレンの音がなると入っていました。

あの日は初めサイレンがなって、三十分ほどで解除となり、防空壕から出ていくと、私の前に現れた兵隊さんが、私に「おしよちゃん、あんた、そんなに多く持っていては動けないでしょう。」次にサイレンがなったら必ずB29が来ます。「だから防空壕に入つてはだめ、みんな死んでしまいます。煙にまかれて死にます。」と言つて下さいました。

「どこへ行つたらいですか」と聞くと、「大きな川のある場所に行きなさい」と言つので、ありがたうございました。と頭を下げて家に帰り、父に話すと「神通川原にしよう」と言っている時クグンと小さな音がしました。

「アッ来た」と私が言うと、父がエー?と私の顔を見てから「聞こえるな」と言うがはいか、音がだんだん大きく近くなって来ました。クグンクグンと腹をえぐるような音でした。

父は、「私は警防団で町内を守らなくては行けない。だから朝子、姉ちゃんだから、パーチヤン、妹、母ちゃん、赤ちゃんを見てくれたのむ」と私の肩をたたいて「たのむぞ」と大きな声で言いました。かと思つとすぐ走つて行つてしまいました。「ハイ」と大きな声で返事はしたものの、私はまだ小学五年生です。

「サ、みんな手をたないで行くよ」と走りました。道は人、人で、上から弾が落ちました。キヤーとさけぶ声が出はじめました。上を見て、学校で言われたように手を上げて、B29

から四十五度の角度から落ちてくる弾は、きつと自分にあたると思ひ、右に左へと蛇行して走りました。人がキヤー、ヤラレタと言つて声の聞こえ、たびにパーチヤンが「ココで死んでもいい」と座るので、「何言うとするが、死ぬ時は皆一緒」と力をかけながら走りました。「かあちゃん赤ちゃんを前に持つてこられ、うしろだとママがあたでもわからんから」と私が言うところ、土手まで走ると、またみんながワレワレヨと上にある中、私は小さいのでつぶされそうになりました。

河原は人、人でウヨウヨです。B29は河原をみんながあつまると思つたのか、バンバン雨の様に落しました。B29はライトが光り、河原はまるで明るく、人がウヨウヨしているのがハッキリ見えます。

その中へ弾を落とすのですから私達はどうにも出来ません。集中して落としました。三十分くらいつづき、まるでお寺で見た地獄図です。同じ場所には弾があたる、と思つたその時、私の背中の下に何か当りました。「ヤラレタ」と言つて母がどことどこを腰をなで、「何もなるとらん」と言つてくれました。

でも、たしかに何かがありました。B29の音がしなくなりました。でもまた次のが来るのかと思ひましたが静かになりました。だれかと思ひましたが「音しなね」と話声が出るようになりました。

次に、子供、親がさけぶ声がありました。河原はハチャメチャです。涙声、呼声、ドウスルーなんて泣く人、タスカッターとさけぶ人、着ている物がコゲコゲ、顔は真っ黒、初めの顔も真黒です。妹が、姉ちゃんの顔まっくらだと初めて口を開きました。

フト私が後ろを見ると、二人の男の子がしつかり手をたないで寝ている様に見えたので、「ボク、終わったよ」と足をさわると、半ズボン、白いカッターシャツに運動靴をはいて、美しい顔で目をたしてました。半ズボンという事は富山の子ではないと私は思ひました。富山では男はみな長ズボン、女はモンペでしたから。すると母が横に顔を振るので、「どうして」と言う

と、頭を指さしてみせました。頭から、真白いキレイな脳が出ていました。私と母の二人とも、「可愛そう、だれか家の人がいないの」と泣きました。下は幼稚園か、上は小学校二年生ほどでした。私の背中に何か当たったあの時かな、と思ひました。「私をたすけてくれ、ありがとう」と手を合わせました。

私たちは八ヶ山の実家で、一週間ほど身体を休めてから焼跡に行き、少しずつかたづけはじめました。町内の皆さんも、ボツボツと来られるようになり、「生きとつた」と声をかけあいました。

また、市役所の人かだれか、私には判りませんが、おられました。皆さん真赤にコゲ、まるでイカの鉄砲焼きのようでした。私にあの兵隊さんが言つて下さった事はほんとうでした。ありがたう、ございましたと頭を下げて見えました。身元のわからない亡くなった人々は神通河原に集められ山のように。身よりのない方見に来て下さい」とトラックから呼んでいますが、どうにもならず、油をかけ、おまいりをし火葬をなさいました。

その時の二オイが何年たつても橋の上を通るとアーンとしたものです。そのお骨の山から、皆さん自分の身内ものとして持つて行かれました。

今日、この様な話を聞いていたときほんとうにありがたう、ございます。詳しいことを覚えてるのは私達の年代までです。妹なんか、何があったのか、どうして火の中を走ったのかも知りません。七十年がたつたんですね。今日、私のような者の話を聞いていただき、戦争の悲惨さを少しはもうわかつていただけたと思ひますが、二度と戦争はしけません。

世界の人々と仲よく平和で明るい国にしましょう。お願いがあります。今夜二番火花がドンとなつたら「皆様のおかげです」と手を合わせ、お願ひします。お願ひします。私は毎年あの可愛い子供達のために手を合わせています。

「命のつながりとふるさと富山」

富山市立芝園中学校三年

萩野 晃司

僕は今年で十五歳になります。数年前、祖父から聞いた話ですが、祖父はちょうど今の僕と同じ十五歳のころ、特攻隊に志願したそうです。祖父は、自身の小柄な体格にコンプレックスを抱いていましたが、その体格は飛行機乗りとして適していたので、「やっ」とこの体格でできることがある」と思い、喜んで特攻に志願したそうです。しかし、その後間もなく戦争は終わり、祖父が特攻に行くことはありませんでした。そして祖父が祖母と結婚し、父が生まれ、僕が生まれました。

その話を聞いて、僕は、命のつながりを深く感じました。もしも祖父が特攻に出撃して、亡くなっていたとしたら、祖母と祖父が出会うことはなく、父も生まれなかったでしょう。つまり、僕が生まれることもなかったということですね。奇跡的な命のつながりによって、僕はここ、大好きな富山に生まれてくることができたのです。そして芝園中学校の仲間達と出会う、今の僕があります。その仲間達も、命のつながりがあって、今、ここにいます。人間が生まれて、成長して、誰かと出会うということは、決して偶然ではないのだな、と思いました。

たくさんのつながりによって、僕のふるさと富山がある、と思います。多くの人々の知恵や活動によって、僕の大切な富山があります。本当に、富山出身でよかったです。今の富山ほど、暮らしやすい地はほかにはありません。

僕が思う富山の魅力とは、自然の豊かさや米や魚など



城址公園内にある戦災復興記念像（天女の像）

の食が豊富であるということです。医薬品や、アルミ関連、自動車部品の製造など、多種多様にわたる生活の基盤となる産業もたくさんあります。つまり、富山は衣食住に優れた住みやすい地であるということです。

そんな富山をPRするために、芝園中学校では様々な活動を行っています。「富山出身になりたい、富山出身でよかった」ポスターを制作して掲示したり、学校独自のキャラクターをつくったりしています。これらの活動によって、ぬくもりのある街、富山のすばらしさを多くの方々に知ってもらえたでしょう。僕は、そんな芝園中学校が大好きです。

今年の三月に、北陸新幹線が開通しました。これによって、富山の魅力がより広い地域で知られるでしょう。これから様々な面で発展していくとも思います。このふるさと富山の魅力を全国に向けて発信することの重要性を感じます。僕達、若い世代がその役割を担うべきです。僕は、大切なふるさと富山のすばらしさを日本、いや世界の人々に伝えたいです。それが、僕の強い願いです。

「我らの誇る富山」

中学生作文優秀賞

富山市立芝園中学校三年

清水 萌子

美しい富山湾に面し、立山連峰がそびえる富山。私たちは豊かな自然に囲まれて暮らしている。しかしそんなこの地には、かつて悲惨な出来事があった。富山大空襲。その被害は想像もつかないほどのものだった。

私が富山大空襲を知ったのはつい最近のことだ。修学旅行で訪れる広島島の原子爆弾について調べる事前学習があった。その授業の時に、原子爆弾が投下された広島市・長崎市を除けば、富山市は空襲の被害が最も大きい地域だということを知った。今、こうして私たちが穏やかに暮らしている地が、昔は戦場だったという過去をすぐには信じられなかった。驚きと共に、ふるさと富山が歩んできた長い時がどのようなものだったのかを深く知りたいと思った。そこで私は、図書館を訪れた。様々な史書に触れ、知識を深めようと思ったのだ。私が手に取ったのは「富山の歴史書」という本だった。この本には富山がたどってきた日々や戦争の被害、復興に関する事実が詳しく記されていた。空襲によって当時の市街地の九十九・五%が焼失したこと。はじめは道路や鉄道などの交通機関の整備が行われたこと。初代県令は教育に力を入れていたことなどが記されていた。今の富山県の学力に大きく影響していると言えらるだろう。その二十九

年後には戦災復興記念像「天女の像」が建てられたそうだ。こうして平和な時代に生まれ育つことができ本当に良かったと思う。ゆっくり、それでも着々と薄れていく悲劇の記憶。私たちはそれをどうにかして語り継いでいかなければいけない。歴史をたどることで、今の私たちがどれほど恵まれた環境の中で育つことができたのかを身に染みて感じた。今、目の前に広がる、私の大好きな美しい富山。この十五年間を過ごし、心を育て、成長させてくれた私のふるさと。今では、かつての悲劇を感じさせない程の豊かさを取り戻した。今の富山市、そして今の私たちが在るのは、あの頃復興に力を注いだ人々のおかげだ。

私たちの安全を守ってくださる見守り隊の方々や、地域のボランティア活動に積極的に参加することで地域の発展に協力して下さっているお年寄りの方々。私たちの生活に豊かさを取り戻された今でも、影で支えてくださるお年寄りの方々の存在があることは変わらない。あの時代を生き抜いた彼らの強さや温もりをこれからも残していくため、そしてもっと富山市を輝かせるために、いずれは私も富山市の発展にたずさわっていきたいと思っている。今度私は私たちが若い世代がふるさとの伝統を守り、富山を支えていきたいと思うのだ。

「富山と水力発電」

富山市立新庄中学校三年

木村 有里

富山では、水力発電が盛んに行われていて、県内には百四十箇所余りの水力発電所があります。ダムから勢いよく大量の水が放出される様子は、迫力と美しさがあり、観光客の誘致にも二役かかっています。また、県の利用可能な水力エネルギーの量は全国でトップクラスです。そのため、水力発電によって、県内で必要な電力の八十四パーセントに相当する電力を生み出すことができます。

富山でこんなにも水力発電が盛んになったのは、豊富な雪解け水に加え、先人たちの長年にわたるたゆまぬ努力があったからです。

水力発電をするときは大抵の場合、ダムを使います。しかし、ダムをつくるにはたくさんの人の壮絶な努力と、長い年月が必要です。「くろよん」の愛称で親しまれている黒部ダムは、電気需要が大幅に増大することが見込まれた昭和三十年代から建設が始まりました。述べ二千万人の労働力が費やされ、完成までには約十年もかかりました。そして、建設の途中には様々な困難がありました。中でも、「最大の危機」だったと言われるのが、地下水を大量に含んだ軟弱な地層との遭遇です。地層を掘ると大量の水が天井から降ってきたため、前へ進めなくなってしまうのです。水の温度は四度ととても冷たく、砂のように

勢いよく降ってきたそうです。そこで、作業をしていた人たちは水を他の場所へ流すためのトンネルをつくったり、地層をセメントで補強しながら工事を行いましたと多くの工夫をしました。その努力の結果、七か月かけて軟弱な地層を突破することができました。

ダムの建設をはじめとする、水力発電の歴史にはたくさんの人の汗と涙喜びや辛い想いが詰まっています。今、私たちがいつでも簡単に電気を使えるのは、未来のために命をかけて働いてくださった先人たちのおかげです。私たちはその先人たちに感謝して、大切に電気を使わなくてはなりません。

水力発電では水の力で発電機を回すため、二酸化炭素が排出されません。とても環境に優しい発電方法なのです。そして、現在はいより環境に配慮した小水力発電所の建設も進められています。小さい発電機を水路に設置して発電を行うので、自然が破壊されません。富山はこの小水力発電にも力を入れていて、年々小水力発電所の数が増えてきています。

生命の源である水や、暮らしを支えている電気は、私たち人間が生きていくうえで必要不可欠なものです。自分たちの生活のため、未来に生きる人々のために、絶対を守っていかなくてはなりません。さらに、この二つは今後の富山の発展にも大きく貢献することでしょう。水と電気を富山の人々全員で協力し、未来へ繋いでいくことが、先人たちから託された使命だと思います。

式典



1. 富山市の紹介映像

2. 国歌斉唱

3. 黙とう

4. あいさつ

富山市長 森 雅志

5. 中学生作文最優秀賞発表

富山市立芝園中学校三年 萩野 晃司
「命のつながりとふるさと富山」

6. 戦災体験談

作 /久郷 朝子
朗読/声のライブラリー友の会 澤山 祐子

7. 代表献花及び一般献花

演奏/レーベン弦楽四重奏団
第1ヴァイオリン 青木 恵音
第2ヴァイオリン 渋谷 優花
ヴィオラ 嶋 志保子
チェロ 富田 祥